

第5回カレンダーフォトコンテスト

このカレンダーは、日めくりとして仏教にちなんだ31の文言と写真により構成され、全国の寺院、海外を含め、毎年15万部以上を頒布し、ご好評をいただいております。また入選作品の「写真展」を築地本願寺や平等院のミュージアムにて毎年開催しております。※今後海外での写真展も予定
どなたでも応募可能ですので、是非ご参加ください。【締め切り：2018年8月31日（金）必着】

【カレンダー三十一文言】

- 1 仏道をならうというは自己をならうなり
- 2 蔞かぬ種は生えぬ
- 3 玉磨かざれば光なし
- 4 すべてのものは縁によって生滅する
- 5 なせば成る なさねば成らぬ何事も
- 6 思ふたことは皆言ふな
- 7 欲をおさえておのれに克つ
- 8 慈しみの心 悲みの心
- 9 知らざるを知らずと為せ
- 10 是れ知るなり
- 11 平常心は是道
- 12 ことばと行いを致させよう
- 13 迷いもさととりも心から現われる
- 14 道を求める人は静かに考えて輝く
- 15 成らぬ堪忍するが堪忍
- 16 たらわれない心を持つ 独生 独死 独去 独来
- 17 言うなかれ 今日学ばずして来日ありと
- 18 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 19 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 20 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 21 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 22 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 23 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 24 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 25 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 26 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 27 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 28 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 29 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 30 悪を知らせてくれる人に感謝する
- 31 悪を知らせてくれる人に感謝する

コピー可 応募票 天 ↑
フォトコンテスト - ほとけの心 -

ふりがな	
氏名	年齢
住所 〒	
電話番号	
文言の番号	撮影場所（寺院名等）
番	
当コンテストをどこでお知りになりましたか？	
『日本カメラ』・学校・寺院・公募ガイド・その他	
当協会メールマガジンをご希望の方はメールアドレスをご記入ください	

【テーマ】

- ・2020年用『一日一訓カレンダー』の各文言にあう写真【1人3点まで】 ※カラー / 横位置 / 単写真のみ
- ・表紙採用：テーマ「正しい心の統一・正定」【1人1点まで】 ※カラー / 縦位置 / 単写真のみ

【題材】自然風景、動・植物や花等のネイチャーフォト、工芸品などの静物、抽象写真 ※人物は不可

【応募方法】送り先 〒108-0014 東京都港区芝4-3-14 公益財団法人 仏教伝道協会

- ・1人3点まで（表紙写真も応募する場合は4点）ご応募いただけます。
- 3つの文言に対し1枚ずつ、1つの文言に対し3枚、どちらでも結構です。
- ※他のコンテストなどに応募中や応募予定である作品、または過去に入賞した作品は応募できません。
- ・キャビネサイズ（127mm×178mm/2 L判に相当）にプリントしたものを、角7封筒等に入れ、簡易書留または宅配便にてお送りください。 ※応募締切：2018年8月31日（金）必着
- ※データ（メール、CD-R等）では受け付けていません。必ずプリントしてください。
- ※上記応募票に必要事項を記入の上、作品裏に天地が判るようメンディングテープ等で貼付しご応募ください。応募票は当協会ホームページからもプリントできます。
- ・応募した写真が別の文言で入選する場合もございますので、予めご了承ください。
- ・応募作品の返却は致しません。審査後、当協会にて適切に処分致します。

【審査】当協会審査会にて選出。なお、審査や入賞などに関するお問い合わせにはお答えできません。
石黒健治氏(写真家)・杉全泰氏(写真家)・丸林正則氏(写真家)・金子美智子氏(写真家)

【賞金】表紙採用：賞金10万円×1名 入選：賞金5万円×31名 ※入選報告は電話または郵送にてお知らせします。

【発表】コンテストの結果は、当協会のホームページ（2018年11月）に掲載します。

【入選作品】入選作品は、原版（デジタルデータ）を提出していただきます。

返却は致しませんので、コピーを保存してご提出ください。

※入選作品の著作権は撮影者に、版權は当協会に帰属します。当協会は入選作品を無償で使用する権利を有します。入選作品は主に以下の目的で使用します。当協会刊行の「一日一訓カレンダー」への掲載。新聞・雑誌広告、ポスターなどの印刷物、またホームページなどのwebコンテンツとしての二次利用など。撮影者の氏名を表示する場合がございます。



二〇一八年用一日一訓カレンダー

【注意事項】個人・法人が所有・管理、あるいは権利を保有する被写体が含まれる場合、その被写体の権利所有者に承諾をいただいでください。他人の著作権、肖像権等を侵害するような行為が行われた場合、それに関するトラブルの責任は一切負いかねます。また、そのような作品の入選が判明した場合は、入選を取り消しさせていただきます場合がございます。また応募作品は応募者本人が撮影し、全ての著作権を有しているものに限ります。他人の名前を使用した場合は失格になります。入選・落選を問わず、取得した個人情報については、カレンダーフォトコンテストの事業運営およびそれに伴う目的のみ使用し、他の目的には使用致しません。公益財団法人 仏教伝道協会の個人情報の取扱いに関する詳細については、当協会ホームページ「個人情報保護に関する基本方針」、「個人情報の利用目的」をご参照頂きますようお願い申し上げます。



カレンダー31文の意味と出典

表紙: 正しい心の統一/正定

迷いのない清浄なるさとり境地に入ること。

- 1 仏道をなろうというは自己をなろうなり 【出典】道元『正法眼蔵』
仏道を学ぶということは、自己を学ぶことである。
- 2 蒔かぬ種は生えぬ 【出典】井原西鶴『世間胸算用』
原因のない所に結果はない。何もしないのによい報いを期待してもそれは得られない。
- 3 玉磨かざれば光なし 【出典】河竹黙阿弥『日本晴伊賀報警』
宝石も、地から掘り出したままで磨かなければ光を放たない。同じように、人も優秀な素質を持って生まれても、学問や修練を積まなければ大成しないということ。
- 4 すべてのものは縁によって生滅する 【出典】『仏教聖典』
すべてのものは縁によって生滅するものであるから、有と無とを離れている。愚かな者は、あるいは有と見、あるいは無と見るが、正しい智慧の見るところは、有と無とを離れている。これが中道の正しい見方である。
- 5 なせば成る なさねば成らぬ 何事も 【出典】上杉鷹山『上杉家文書』
人間、その気になってやれば、どんなことでもできる。
- 6 思うたことは皆言うな 【出典】『安芸三津漁民手記』
思ったことを全て口に出してはいけない。
- 7 欲をおさえておのれに克つ 【出典】『仏教聖典』
教えのかなめは心を修めることにある。だから、欲をおさえておのれに克つことに努めなければならぬ。
- 8 慈しみの心 悲みの心 【出典】『仏教聖典』
仏は、冥想に入って静けさと平和を得、あらゆる人びとに対して慈しみの心、悲みの心、とらわれない心を持ち、心のあらゆる汚れを去って、清らかな者だけが持つ喜びを持つ。
- 9 知らざるを知らずと為せ 是れ知るなり 【出典】『論語』
知らないことは、知ったふりをせず知らないとはっきりさせよ。知っていることと知らないこととはっきりさせることが真に知ることである。
- 10 平常心は道 【出典】無門慧開『無門関』
平常の心そのままが、悟りの道である。
- 11 ことばと行いを一致させよう 【出典】『仏教聖典』
順調の時も逆境のときも信仰を増し、恥を知り、教を敬い、言ったとおりに行い、行うとおりに言い、ことばと行いとが一致し、明らかな智慧をもつてものを見、心は山のように動かず、ますますさとりへの道に進むことを願う。
- 12 迷いもさとりも心から現われる 【出典】『仏教聖典』
迷いもさとりも心から現われ、すべてのものは心によって作られる。ちょうど手品師が、いろいろなものを自由に現わすようなものである。人の心の変化には限りがなく、そのはたらきにも限りがない。汚れた心からは汚れた世界が現われ、清らかな心からは清らかな世界が現われるから、外界の変化にも限りがない。
- 13 道を求める人は 静かに考えて輝く 【出典】『仏教聖典』
おのれこそおのれの主、おのれこそおのれの頼りである。だから、何よりもまずおのれを抑えなければならぬ。おのれを抑えることと、多くしゃべらずにじっと考えることは、あらゆる束縛を断ち切るはじめである。日は昼に輝き、月は夜照らす。武士は武装をして輝き、道を求める人は、静かに考えて輝く。
- 14 成らぬ堪忍するが堪忍 【出典】『やしなひぐさ』
がまんできないうところをじっとたえ忍ぶのが本当のがまんというものである。
- 15 とらわれない心を持つ 【出典】『仏教聖典』
とらわれないとは握りしめないこと、執着しないことである。道を修める者は、死を恐れず、また、生をも願わない。この見方、あの見方と、どのような見方のあとをも追わないのである。
- 16 独生 独死 独去 独来 【出典】『無量寿経』
人はこの愛欲の世間にひとりで生まれ、ひとりで死に、ひとりで去り、ひとりで来るのだ。行うところに随って苦みの人生を得たり、幸福な人生を得たりする。行う者自身がその報いを受けるのであり、代りに受けてくれる者などありはしないのだ。
- 17 言うなかれ 今日学ばずして来日ありと 【出典】『朱熹一勸学文』
今日学ぼうとしないで明日があるからなどと言ってはならない。
- 18 悪を知らせてくれる人に感謝する 【出典】『仏教聖典』
悪人と善人の特質はそれぞれ違っている。悪人の特質は、罪を知らず、それをやめようとせず、罪を知らされるのをいやがる。善人の特質は、善悪を知り、悪であることを知ればすぐやめ、悪を知らせてくれる人に感謝する。
- 19 過ちで改めざる これを過ちと謂う 【出典】『論語』
人は誰でも過失を犯すので、この過失をよく改めれば取り返すこともできるが、改めようとしなければ過失は過失のままであり、これこそ真の過失であるというべきだ。
- 20 心に従わず 心の主となれ 【出典】『仏教聖典』
もし心が邪悪に引かれ、欲にとらわれようとするなら、これをおさえなければならぬ。心に従わず、心の主となれ。
- 21 施しても施したという思いを起ささない 【出典】『仏教聖典』
さとりのためには、成しとげ難いことでも成しとげ、忍び難いことでもよく忍び、施し難いものでもよく施す。日に一粒の米を食べ、燃えさかる火の中に入らば、必ずさとりを得るだろうという者があれば、そのとおりにすることを少しも辞さない。しかし、施しても施したという思いを起さず、ことをなしてもなしたという思いを起ささない。ただそれが賢いことであり正しいことだからのである。
- 22 真理は不生不滅である 【出典】龍樹『中論』
心の境地が減したときには、言語の対象もなくなる。真理は生じるものでも滅するものでもなく、実にニルヴァーナのようなものである。
- 23 我というのは煩惱なり 【出典】『一遍上人語録』
我身(自我執着)こそが煩惱なのである。
- 24 両極端にとらわれない 【出典】『仏教聖典』
道を修める生活にとって大事なこと、両極端にとらわれず、常に中道を歩むことである。すべてのものは、生ずることもなく、滅することもなく、きまつた性質のないものとしてとらわれず、自分の行っている善にもとらわれず、すべてのものに縛られてはならない。
- 25 人 生けるとき精進せよ 【出典】『往生礼讃』
人が生まれて仏道を修めないならば、あたかも木に根がないようである。花をとって日中におくならば、よくどれほどの時か鮮かであることができようか。人の命もまたこのようである。無常はたちまちの間にある。もろもろの道を修める人たちに勧める。勤め修めてついでにさとりに至れよ。
- 26 人びとの迷いには限りがない 【出典】『仏教聖典』
人びとの迷いに限りがないから、仏のはたらきにも限りがなく、人びとの罪の深さに底がないから仏の慈悲にも底がない。
- 27 後生大事 【出典】『日本永代蔵』
来世での安楽を最も大事にすること。信心を忘れず善行を積むこと。
- 28 無常の風は時を選ばず 【出典】ことわざ
死は老若にも時節にも関係なく訪れる。人はいつ死ぬか分からないというたとえ。
- 29 眼を開けば どこにでも教えはある 【出典】『仏教聖典』
同じ道を修めても、先にさとする者もあれば、後にさとする者もある。だから、他人が道を得たのを見て、自分がまだ道を得ていないことを悲しむには及ばない。弓を学ぶのに、最初に当たることが少なくても、学び続けていけばいつかは当たるようになる。また、流れは流れ流れてついでには海に入るように、道を修めてやめることがなければ、必ずさとりは得られる。前に説いたように、眼を開けば、どこにでも教えはある。同様に、さとりへの機縁も、どこにでも現われている。
- 30 浅き川も深く渡れ 【出典】『世話尽』
浅い川でも、深い川の場合と同じように注意して渡れ。小さなことに油断してはいけないという戒め。
- 31 一日を空しく過してはならない 【出典】『テラガター』
多かろうと少なかりょうと、一日(のうちの時間)を、空しく過してはならない。一夜を(無益に)捨てるならば、それだけそなたの生命は減るのである。